

経営のヒント216 運は戦略にあらず」ビジョナリーカンパニー

ビジョナリーカンパニー 自分の意思で偉大になる」に書いていました。

運は戦略にあらず (305p)

人生は確かなことは何もない。しかし、不確実な未来に備えて戦略を立てることはできる。運を管理することさえ可能だ。運の管理には4要素ある。

1. 運が訪れたときにそれをきちんと認識するため、ズームアウトする能力を身に付けておく
2. 運に遭遇したらそれまでの人生計画をいつ棚上げしたらいいのか、判断できるようにしておく
3. 必ず訪れる不運に耐えて復活するため、十分に準備しておく
4. 幸運だろうが不運だろうが、運が訪れたらプラスのリターンを生み出す。

である。戦略ではないが、ROL、つまり運の利益率をプラスにすることは戦略である。

10X 型 (10倍) リーダーの行動パターン

幸運に恵まれても決して気を緩めることはない。不運に見舞われても打撃を受けても、くよくよしない。大目標と大義に向かって前進し続ける。

自力で運を呼び込むことはできないし、運を制御したり予測したりすることもできないと理解している。

しかし、10X 型手法で行動 指導することで、遭遇する運から最大限の成果を引き出している。

「運を磨くより先運に恵まれるほうが良い」という諺があり、たぶんそこには真理があるのだろう。もっとも、それは「普通」よりもちょっとマシな「良い」で満足する人たちを前提にした場合である。

「特別」「偉大」を追求している人たちを前提にすれば、180度異なる意味合いを持つ諺が必要になる。それは「運に恵まれるよりも偉大になるほうがはるかに良い」である。

10X 型リーダーは運に対して矛盾した態度を見せる。

過去の成功を回想する時、まるで内裏を合わせたかのように「幸運に恵まれた」と言うのだ。

競争相手もまったく同じように幸運に恵まれていたという厳然たる事実があるにもかかわらず、である。

一方で、失敗しても「運が悪かった」とは言わない。

運から偉大な成果を出すのに失敗すると全責任を負うのだ。

失敗を運のせいにする運に屈したことになると理解しているのだ。

同様に、いつ幸運に助けられたのか認識できないとしたら、それは自分の能力を過大評価している証拠である、とも理解している。幸運によってたまたま成功したのにそれを認識していなければ、幸運が過ぎ去った後に無防備なままで危険な状態に陥りかねない。

偉大さを追い求める道中には、ひょっとしたら多くの幸運が待ち構えているかもしれない。

だが、10X 型リーダーが幸運を当てにすることは決してない。

参考著者「ビジョナリーカンパニー 自分の意思で偉大になる」ジム・コリンズ

< 経営のヒント >

最高の運は誰か」。

良き助言者、良きパートナー、良きチームメイト、良きリーダー、良き友人を見つける運のことだ。

あらゆる種類の運のうち最も重要な運の一つである。

幸運の流れに乗る最良の方法は、偉大な人たちと一緒に泳ぐことだ。あなたが命を懸けてもいいと思える人たちがいる。あなたのために命を懸けてもいいと思ってくれる人たちがいる。そんな人たちと永続的で深い関係を築くということが肝心である。

ボーナスとしての追加質問

あなたにとって最高の運は誰か？